

庚申塔調査第4回記録 2019年 4月18日

1. 頼朝墓の下白旗神社付近他(調査付記)

目的地の西御門に向かうため岐れ路バス停で降りる。頼朝の墓の下まで寄り道し、階段下の顕彰碑や白旗神社裏の忠魂碑を見た。新たに見かけたものとして法華堂についてQRコードを用いた法華堂についての説明板が設置されていた。

西御門の八雲神社に向かう途中で住宅地の発掘調査をしているところがあった。比較的広い敷地の住宅地で新しく建物を建てる前のお決まりの調査と思われるが2m以上掘り進められていて地層の境界がはっきりと何層にも分かれているのが確認できた。何回も建物が建て直されているためか。発掘成果としてかわらけの断片が数十個並べてあった。

2. 西御門八雲神社境内 3基

A 既存資料データ

右左 笠塔婆

正面 青面金剛像・六手・月日 山壇三猿(みきい)

下手 髪の毛 右手 劔

四手 輪宝 三股叉 弓 矢

右面 文化五戌辰年 三月吉日

左面 ? 四祥月

台石 西御門村講中 七名の姓名

黒川伊左衛門 鈴木平右衛門 小宮喜左衛門 鈴木又右衛門 飯島与兵衛

黒川繁左衛門 石渡藤左衛門

笠 48×16+30×(44+猿 21+台 14) 30×70

中 舟型

正面 青面金剛像・四臂・邪鬼 日月 左右に鶏 三猿(いみき)

右脇 奉造供養庚申

左脇 為講中二世安楽

「邪鬼を踏んで立ち、上二本手と下二本手を左右上下斜上下に開き、上手に鉾、弓矢を持つ。正面の台に来迎寺他村民4名の姓 末尾に延宝八庚申年七月吉日」 「鎌倉の庚申塔」が「道ばた」を引用

台正面 来迎寺 鈴木氏 飯島氏 高木氏 黒川氏

45×(77+猿 15+台 19+台 13) 90×115

左右 舟型

正面 青面金剛像・合掌・六手 左右に鶏 三猿(みきい)

下手 髪の毛 右手 劔

四手 輪宝 三股叉 弓 矢

右脇 元禄三〇〇年

左脇 十一月吉日

下壇 村民 13 名の氏名 村民 13 名で氏名

伊左衛門 門左衛門 庄右衛門 緑次郎 ○○○○ 彦兵衛 久右衛門 門兵衛
太右衛門 村右衛門 長左衛門 長○○○ ○○○○ 伊兵衛
40×(56+猿 14+台 16+台 16) 42×87

B 調査結果

「木村」では、右から舟型 舟型 笠塔婆型の順と記載され、「堀」では笠塔婆、舟型、舟型の順に並んでいると記載されている。現認したところ、「堀」が正しい。

- (1) の笠塔婆型の正面は記載通りである。「木村」「堀」とともに右面に文化五年と刻印されているとあるが、実際は左側面である。右面は解読不能であった。サイズは、実測すると高さは 83 奥行 25 笠の部分は 46×42 であった。
- (2) の舟型の既存資料の結果では「木村」と「堀」とで一致するが、「堀」が「木村」を引用しているため、「堀」が独自に調べたかどうかはわからない。全体に「道ばたの信仰」記載どおりであったが、鶏の線刻は風化してはっきりとは判断できなかった。また、「正面に 4 人の姓だけ刻み」とあるが、実際には鈴木、飯島、高木、黒川、高木、黒川 と 6 人分が刻んであった。「氏」は刻印されていない。同姓分はカウントから除外したのであろうか。さらに、サイズは「木村」と「堀」と大きく異なるが、実測は 47×108 であったので、「堀」の記載がほぼ正しい。
- (3) の舟型は、ほぼ「道ばたの信仰」に記載されていることを確認できた。

3 岐れ路 1 基

道標

A 既存資料データ

正面 庚申供養 項辺に仰向けに 1 猿 造立者 5 名

大倉村 藤生衛門 佐助 弥助 ○○○ 卯○○

右脇 裏面 延享二丑年

左脇 裏面 十一月十五日

右面 右金沢道

左面 ゑがら天神宮 大とうの美谷宮土ろう道 瑞泉寺一らんてい の 3 行

24×(猿 7+55+台 10) 20×60

B 調査結果

頂上に猿があおむけに浮彫にされているのは、「道ばたの信仰」の記載どおりであるが、頭部にあたる面に「えがら天神道」「瑞泉寺一らんてい」「大とうの宮土ろう道」と 3 行刻み、反対側に「右金沢道」とあるのは逆で、3 行刻んであるのは猿の足先の部分で、頭部側に金沢道と刻んである。表に庚申供養塔、右わきに「延享二年」左わきに「十一月十五日」とあるが、後ろ側にあり、右わきは「延享丑二年」と読め、左わきの文字は読めなかった。大きさは 24×60×38